

令和5年度における地域包括支援センターの特色ある取組について

区	センター名	分類	特色ある取組
中 区	基町	・介護予防 ・センターの広報	圏域内に中国籍の方が多く、高齢化してきていることから、情報提供が課題の1つとなっている。介護予防の取組を行う通いの場や地域包括支援センターへの早期相談につながるよう、中国語で地域のサロンの活動カレンダーを作成した。カレンダーは、公民館などの地域の方が集まる場に設置した。
	幟町	高齢者地域支え合い事業	高齢者同士で見守りを継続する難しさと、必要な方が登録できていないという課題から、地元企業を巻き込んで多世代向けのイベントを開催した。キッズコーナーや骨密度測定などの健康コーナーを設置したところ、多くの来場者があり、個別見守りの登録受付のほか、地域や店舗での見守りを周知することができた。
	国泰寺	包括的・継続的ケアマネジメント支援	ケアマネジャーが行う介護予防ケアマネジメントに栄養の視点が不足しており、区全体で栄養面のアセスメントと短期集中予防支援訪問サービス利用をテーマに研修会を行うこととした。研修理解が深まるよう、栄養の基礎知識と栄養管理の必要性をテーマとした研修会を、医師を講師として圏域内で事前に開催した。
	吉島	他機関・企業との連携	広島刑務所との継続的な関わりを通して、認知機能が低下した受刑者への対応に苦慮している実態を把握したため、認知症サポーター養成講座を開催した。また、出所後の生活を見据えて、刑務所の実情をセンターだよりに掲載し、地域へ広報するとともに、刑務所内にセンターだよりを設置して相互理解を図った。
	江波	高齢者地域支え合い事業	認知症サポーターステップアップ講座修了者が世話人を行うマンション内の通いの場で、認知機能が低下した高齢者が増えているという課題を把握したことから、修了者とともに管理会社と理事会に働きかけ、マンション内での高齢者地域支え合い事業の展開について具体的な協議を行った。

区	センター名	分類	特色ある取組
東 区	福木・温品	高齢者地域支え合い事業	高齢者地域支え合い事業の見守り対象者や協力員の数が増えないという課題から、登録者に健康状態と見守られることに対する意識調査を行い、見守りを行う上での課題などをネットワークで共有したことで、見守り活動のマニュアル策定やネットワークのチラシの見直しなどの活動につながった。
	戸坂	地域介護予防拠点整備促進事業	リハビリ専門職と地域介護予防拠点への支援方法について毎月検討している。体力測定日の参加率が減少したため、リハビリ専門職と作成した4つのメニューを参加者が選択できるようにすると、参加率を下げず専門職の指導を受けられるようになった。住民の反応をリハビリ専門職に伝え、指導内容充実を図っている。
	牛田・早稲田	介護予防ケアマネジメント	言語聴覚士と「口腔チェックリスト」を作成し、講座で活用した。地域介護予防拠点においても基本チェックリストとともに実施し、2つのチェックリスト及び体力測定の結果から選定した方に個別面談を行い、短期集中型サービスの紹介を行ったところ、6名の利用につながった（運動3名、口腔3名）。
	二葉	包括的・継続的ケアマネジメント支援	令和4年度に実施した区レベルの研修会で地域介護予防拠点について紹介し、研修会後に圏域内のケアマネジャーへアンケートを行ったところ、地域のインフォーマルサービスについて、理解が深まっていないことが判明したことから、令和5年度中に改めて圏域内でフォローアップの研修会を開催した。

区	センター名	分類	特色ある取組
南 区	大州	在宅医療・介護連携 推進事業	医療・介護職へコロナ後の変化や課題を確認する中で、ＡＣＰの普及啓発が課題として挙げた。ＡＣＰの対象者となる地域住民へアンケートを実施したところ、専門職と同じ普及啓発が課題として見られたことから、医療・介護職と地域住民が共にＡＣＰの総論を学ぶ多職種情報交換会を開催した。
	段原	介護予防ケアマネジメント	個別事例のケアマネジメントで出た課題が地域課題につながることで、個別事例のアセスメント経験の積み重ねが地域づくりを行っていく上でも生かせることから、センターの主任ケアマネジャーが全てのケアプランを確認し、情報収集の視点や課題の分析などについて助言している。
	翠町	包括的・継続的ケア マネジメント支援	３か月ごとに圏域内の居宅介護支援事業所の定期巡回を行い、困難事例の相談対応、委託しているケースの介護予防ケアマネジメントについての助言などを行っている。困難事例の相談で多く見られた精神疾患や重度化した認知症への対応について、圏域内共通の課題として捉え、研修会を開催した。
	仁保・楠那	在宅医療・介護連携 推進事業	利用者の救急車を呼んだ際の状況などについて圏域内のケアマネジャーに聞き取りを行い、ＡＣＰに記載した意思が救急現場では反映させづらい実態があることを把握した。ＡＣＰの視点から救急隊との連携をテーマとした多職種情報交換会を開催したところ、救急隊を含めた多くの専門職の参加があった。
	宇品・似島	介護予防ケアマネジメント	令和４年度に圏域内の全医療機関を訪問し、短期集中型サービスについて説明した。その結果、令和５年度は短期集中型サービスの提案を、医師からも利用者に行ってもらえた事例があった。利用者の状態から短期集中型サービス利用が望ましくない場合、医師からセンターへあらかじめ助言をいただける事例もあった。

区	センター名	分類	特色ある取組
西 区	中広	・介護予防 ・包括的・継続的ケアマネジメント支援	体力測定に併せて実施した日常生活習慣に関するアンケートで得られたデータを、介護予防の意識向上を目的に地域介護予防拠点で報告した。加えて、同アンケート結果と基本チェックリストの比較結果をケアマネジャーを対象とした研修会で報告した上で、自主的な運動習慣や短期集中型サービスの重要性を伝えた。
	観音	認知症地域支援体制づくり	民生委員が、認知症の方を支える集いの場がないことに対して危機感を持っており、高齢者地域支援事業の運営委員会でも課題として挙げたことから、認知症サポーター養成講座を開催した。開催後、認知症の方を支える機運が高まり、認知症カフェ開設を見据えたステップアップ講座の開催につながった。
	己斐・己斐上	地域介護予防拠点整備促進事業	マンションの地域介護予防拠点が解散し、参加者は周辺の拠点に参加していたが、自分たちの住むマンションに拠点があった方がいいという思いをセンターが聞き取っていた。マンションの総会で、センターから拠点の必要性和住民のニーズを伝え、外部参加者の受入れや会場費について話し合い、再開に至った。
	古田	認知症地域支援体制づくり	地域への認知症の普及啓発方法について、優先度と実行可能性を、認知症サポーターと一緒にポジショニングマップに落とし込んだ。その中から令和5年度は、地域住民に広く普及啓発することを目的として寺院を会場にイベントを開催し、若年性認知症の方が特技などを披露したり、模擬認知症カフェを行ったりした。
	庚午	認知症地域支援体制づくり	地域のつながりが圏域の強みであることを踏まえた認知症地域支援体制づくりに3か年計画で取り組んでいる。令和5年度は専門職を中心に構成された「地域の認知症課題を考えるコアメンバー会議」を重ね、地域の社会資源に携わる地域住民や医療・介護職が共通認識を持つための認知症ケアカフェを開催した。
	井口台・井口	・高齢者地域支援事業 ・他機関・企業との連携	地域住民相互の見守りだけでは負担が大きいという声から、圏域内に企業が多いという特徴を活かし、金融機関や宅配業者、医薬品関連の企業などに働きかけた結果、高齢者地域支援事業の運営委員会への参画につながり、地域の見守り活動と各企業が独自に行っている見守り活動について意見交換を行った。

区	センター名	分類	特色ある取組
安 佐 南 区	城山北・城南	介護予防	民生委員の高齢者全戸訪問時に、通いの場に来られないフレイルと思われる高齢者を把握できるよう事前打合せを行った。民生委員から気になる高齢者の連絡を受けて、センターが訪問して基本チェックリストを実施することで、高齢者に自分の心身状態を気づいてもらい、フレイルの改善に向けた働きかけを行った。
	安佐・安佐南	地域分析	マンション内で地域介護予防拠点が立ち上がったことをきっかけに、それまで関係性がなかった住民同士が気かけあう関係になった好事例を、マンションの多い他の学区で展開するため、まずは集まれる場所や通いやすい環境があるか、学区内全てのマンションを回って確認した。
	高取北・安西	在宅医療・介護連携推進事業	訪問の際に「私の心づもり（ＡＣＰの普及啓発冊子）」を持参し「元気なうちに今後のことを」と一緒に考えている。主治医との共有を勧めたが、受け取られただけだったり、忙しそうで渡せなかったりした事例が複数あった。そのためＡＣＰを区が多職種情報交換会のテーマにするよう意見を出し、開催に至った。
	東原・祇園東	地域介護予防拠点整備促進事業	地域介護予防拠点の世話人から参加者が増えないという声を聞き、まだ参加したことがない方からは雰囲気分からないので行きにくいという声があった。そのため、拠点の雰囲気が伝わるよう、特徴や写真を載せた「拠点新聞」を拠点ごとに作成して様々な場所に設置し、個別でも案内したところ、参加者が増加した。
	祇園・長束	・地域分析 ・業務改善	事業の連動性や地域の課題・強みについて、職員の共通認識が薄く、コミュニティアズパートナーモデルを用いて事業の振り返りや計画立案を行った。その結果、職種の専門性や事業担当の経験を生かして課題を整理でき、方向性を統一できた。意見をまとめた資料は、職員が常に意識できるよう職場に掲示している。
	戸山・伴 ・大塚	・認知症地域支援体制づくり ・他機関・企業との連携	段階的な認知症地域支援体制づくりで、中学校や大学、金融機関、介護サービス事業所と共に、年に一度認知症がテーマの教室開催や、公民館や金融機関での展示を行っている。多職種情報交換会は必ず地域住民も呼び、専門職の連携促進だけではなく、当事者家族の率直な思いを知ることができるよう企画している。

区	センター名	分類	特色ある取組
安 佐 北 区	白木	高齢者地域支え合い事業	地域高齢者交流サロンでも見守り活動を行う地域で、今まで独居高齢者のみを対象としていたが、高齢者夫婦のみの世帯や日中は独居となる世帯も見守り対象ではないかと運営委員と共有したことで、見守りの対象を広げることができた。このことでサロンの参加者が増え、サロンの回数増加について検討している。
	高陽・亀崎・落合	地域づくり	地域住民同士の関係性がないと見守り活動が困難であるという地域団体の思いを受け、多世代交流を図るためのウォークラリーイベントをセンターから地域団体に提案し、役員主体で実施できるようサポートした。イベントでは、地域マップを活用したことで、地域について知る機会にもなった。
	口田	地域分析	総合相談で把握した気がかりな高齢者や避難行動要支援者など、見守りが必要な可能性がある方を地図に落とし込み、民生委員と地域ケア会議の場で共有し、地域に不足する通いの場や見守り支え合いの体制などの地域課題を抽出している。この地域課題は、高齢者地域支え合い事業の運営委員会などでも共有している。
	三入・可部	認知症地域支援体制づくり	夜間開催や当事者が参加するカフェなど様々な特徴がある認知症カフェに対して、それぞれの特徴に応じた支援を行った。その中で、スタッフが大きく入れ替わったカフェに対しては、認知症カフェの目的やスタッフの心構えを改めて学んでもらうために認知症サポーターステップアップ講座の開催を行った。
	亀山	介護予防	地域介護予防拠点で定期的に行っている体力測定後の基本チェックリストの結果を踏まえて、拠点で行う介護予防教室の内容をリハビリ専門職と検討し、転倒予防に関する介護予防教室を開催した。拠点の支援に来ているリハビリ専門職を講師としたため、拠点の実情を踏まえた具体的な内容で実施できた。
	清和・日浦	介護予防	面積が広く、気軽に集会所などに集まらない地域で、全世帯の60%以上に普及している防災無線を活用した情報発信を行っている。その中で、口腔機能低下予防のためにパタカラ体操を行ったところ反響があり、視覚障害のある高齢者からも耳で情報を聞くことができると好評であった。

区	センター名	分類	特色ある取組
安芸区	瀬野川東	認知症地域支援体制づくり	認知症のある方が老人クラブに加入することになり、近隣住民や老人クラブの会員が認知症について知り、接し方を家族や担当ケアマネジャー、認知症地域支援推進員と検討していく地域ケア会議を開催した。家族支援の観点からも、同じような状況の方も地域の活動につなげる働きかけを行うことを共有した。
	瀬野川・船越	認知症地域支援体制づくり	認知症疾患医療センターが近くにあるが、地域住民は精神科病院のイメージが強かった。高齢者地域支え合い事業の活動の中で、認知症がある方への対応の難しさが課題となり、見守り協力員に対して、疾患センターの職員を講師に、疾患センターの役割と認知症の症状や声掛けの仕方を学ぶ研修会を開催した。
	阿戸・矢野	介護予防	地域介護予防拠点で基本チェックリストを行ったところ、口腔機能低下に該当する参加者が多かった。口腔機能低下予防を意識してもらうため、消費者被害に関する研修会開催時にも周知するなど、地域で話ができる様々な機会を捉えてアプローチした。かみかみ百歳体操に取り組む地域介護予防拠点も増えている。

区	センター名	分類	特色ある取組
佐伯区	湯来・砂谷	センターの広報	総合相談の相談内容を類型化して分析した際、件数が少ない項目にも着目した。介護に関する相談は多いが、権利擁護に関する相談が少ないことから、センターに権利擁護の相談ができることが十分に知られていない可能性があることと捉え、民生委員児童委員協議会をはじめ、地域の方と接する様々な機会でも周知した。
	五月が丘・美鈴が丘	認知症地域支援体制づくり	認知症の方への声かけ訓練を、認知症サポーターを対象に各学区で開催した。認知症があると思われる方への声かけから警察への連絡までの一連の流れを体験してもらったことで、声をかける上で難しい部分が明らかになり、日頃からの住民同士の関係づくりの大切さを感じてもらうことができた。
	三和	認知症地域支援体制づくり	高齢化率が一桁の団地での認知症地域支援体制づくりを進める上で、若い世代にいかに関心を持ってもらうかが重要だと考えた。センターが様々な機会を捉え、今のうちから取り組む必要があることを粘り強く伝えたことで受け入れてもらうことができ、認知症サポーター養成講座の定期開催につながった。
	城山・五日市観音	・センターの広報 ・介護予防	センターだよりの注目度が高まるよう、スポーツ新聞風のデザインにし、ユニバーサルデザインフォントを使用してA3サイズで作ることで、高齢者が読みやすいような工夫を行っている。さらに、毎号管理栄養士が監修した、高齢者に不足しがちな栄養素を摂取できるレシピを掲載しており好評である。
	五日市	・地域分析 ・センターの広報	コロナ禍に入職した職員が多く、高齢者が過ごす環境としての地域を改めて把握するため、地元的美容院や喫茶店など、高齢者が利用しそうな店舗を回り、今まで知らなかった生活支援サービスを把握することができた。併せて、今まで関わりがなかった店舗にセンターの役割を説明し、連携体制の構築ができた。
	五日市南	地域分析	新たな取組の展開が難しい地域で、社会資源開発のため、住民自身に地域の良い点や不足している資源に気づいてもらえるような企画をした。生活支援コーディネーターからの説明後、地図に既存の資源を落とし込む作業と一緒に、集える場がないという地域課題やその必要性について共通認識を持つことができた。